EXPERT COMMENT 識者提言

レポート 「日本一の工務店」視察で見えた家づくりの打ち手

新建ハウジングでは読者のリクエストが多いことから、「日本一の工務店」と称されるシンケン（本社鹿児島県鹿児島市・迫英徳社長）への視察ツアーを開催している。ここでは直近のツアーで見えたシンケンの家づくりの打ち手を編集部がレポートする（文責・新建ハウジング編集部）

一度認識すれば次からは一目でシンケンの家だとわかる独自の意匠・デザイン。これはシンケンが選ばれている大きな要因であり、街角に建つ魅力的なシンケンの家は同社の言う「潜在客」（未来の顧客）を確実に育んでいる。また業界から評価され視察希望が絶えない理由でもある。

意匠・デザインだけでなく、［打ち手01］で触れた通り、構造や部材設備、温熱対策も吟味して標準化している。性能値も［打ち手02］で紹介した2,000万円～の「スタディハウス」で断熱等性能等級5＋空気集熱ソーラー標準、C値0.2、耐震等級3（相当）と、必要十分だ。また、使い勝手はもちろん自然を取り込み心地良い居場所をどう実現するかを考え抜いてプランニングしている。

デザイン、性能、使い勝手・住み心地を高いレベルで実現しているということだが、シンケンではさらに「人情の機微」を設計に取り込み「住まい手の心を掻き立て、悦びで満たす」住まいを追究、「スタディハウス」や［打ち手03］で挙げた「ミケラン」などを通して探索と研鑽を続けている。心の悦びまで追い求める家づくりが同社の凄みであり独自性で、デザインはこの一部の表出に過ぎない。

また、シンケンの家づくりは先に手法があるのではなく思想から始まっている。さらに言えば、シンケンの住まいは迫社長の価値観そのものだ。施主は価値観とそれを具現化したシンケンの住まい、そこで営まれている暮らし、それに悦び満足している施主に共感し、こんな暮らしがしたいと家づくりを依頼する。

こうなると施主の「注文」通りにつくる必要はなく、シンケンが考える良い家だけを自分たちが納得する水準で創り続けることができ、それゆえ高い満足と評判、そして潜在客が生まれている。

すべての人がシンケンの価値観やこの姿勢に共感するわけではないだろう。にも関わらず思想と理想を貫き年間80棟前後を建て続けている点で「日本一の工務店」と呼ぶに値するのではないか。

独自性は付加価値・希少価値の源泉で、高単価・高付加価値（粗利）を可能にする。意匠や性能は真似されるが、価値観・思想と家づくり・経営との一貫性は、探索・研鑽の蓄積とそれを実践するスタッフの姿勢とスキルは、満足と評判は真似することができない。これらすべてが「シンケンスタイル」であり、その独自性は研がれ続けている。

打ち手_01

構造・部材設備の標準化で独自性・差異化を実現

構造・部材設備は全棟で原則標準化し独自性・差異化とスケールメリット・習熟を実現している。躯体はスギ板外壁＋集成材＋Jパネル＋モイス＋外張り断熱。窓は木製サッシ。内壁は張らずモイスの表しで仕上げ、その内側に「小柱」を取り付け棚板等を設置できるようにする「プレイウォール」を標準とする。

シンケンの家づくりで最も重要な標準仕様が空気集熱ソーラーだ。冬は屋根で温めた新鮮な外気を床下を通じて室内に取り込み、夏の夜は夜間放射冷却で冷やした乾燥空気を取り込む。鹿児島でも冬の気温は低く、木製サッシと空気集熱ソーラーによって寒いという不満を防いでいる。また、シンケンでは空気集熱ソーラーで効率的に集熱できるよう建物配置や屋根などを太陽に合わせて設計する。このため建物は道路に正対せず斜めに振ることになり、印象的な佇まいになるうえ、斜めに配置したことで生まれる余白を庭などに利用し豊かさを生み出している。

シンケンが追求してきたのがHPにも掲げた「ふだんを、いちばんの幸福に」の実現と独自性の両立だ。常に独自性を意識して思想とつくり方を磨き、幸福な暮らしを追究してきた。そこで培ってきた設計施工メソッド×標準仕様がハード面の独自性を生み、差異化につながっている。迫社長は「太陽光・ZEHが主流になったが、事業としてみると同質化は埋没につながる。独自の思想と建築で幸福な暮らしを実現する道もあり、シンケンは同質化せず独自性を磨き続ける」とする。

打ち手_02

2,000万円～の「スタディハウス」を展開、全国へ

最新の打ち手が「スタディハウス」と呼ぶ2,000万円（税込）～の提案住宅だ。集成材・木製サッシ・空気集熱ソーラー・プレイウォールなどシンケンらしさを実現する標準は省かず、世帯の標準形となった1～3人向けのコンパクトで作り込まないプランに限定することで、自由度を高めつつコストを削いだ。「シンケン＝高いと諦めていた層」を取り込むことで、集客・受注ともに好調という。スタディハウスと名付けたのは顧客とシンケンでこれからの暮らしとそれを実現する空間を学び合い探求していくとの思いから。

また、シンケンの価値観を共有でき本気でスタディしあえる全国の工務店と勉強会を立ち上げ、今後参加工務店がスタディハウスを建てる支援を行っていく。

「スタディハウス」の単独展示場。写真の「すっぴん」仕上げの棟とこれをカスタマイズして想定価格を上げた棟の2つを並べて建て、価値と価格を「スタディ」できるようにした

打ち手_03

「美調整」の場「ミケラン」で水準の維持向上とイズム共有

シンケンならではの「不易」な取り組みが「ミケラン」と呼ぶ完成引き渡し前の社内検査だ。一般的な社内検査では不具合や傷の有無を確認するが、ミケランではシンケンらしい心地良く美しい住まいが自分たちが納得できる水準で実現されているかを確認しあう。

参加可能なスタッフが引き渡し前の住宅に集まり、担当者の概要説明を聞いたうえで、図面を手に建物の内外をチェック。図面上に気になったことを記入する。ミケランには迫社長も参加、重要な指摘をピックアップ。その後実際に修正を行う。ミケランの由来は「細かな修正が積み重なって美は完成する」の言葉を残したミケランジェロ。ミケラン＝微調整→「美調整」の場だという。ミケランを繰り返すことでシンケン独自の設計・施工メソッドを含めた「シンケンイズム」の理解度を深め、美意識・審美眼を磨いている。

6月に開催したシンケン視察体験会では参加した工務店にミケランを体験してもらった。ツアーは今後も継続開催する※9月開催分は満席）

REPORT

シンケン

（鹿児島県鹿児島市）

1977年に迫英徳社長が鹿児島県鹿児島市で創業。自然・建築・人が呼応し合う設計思想とその実践、価値観・思想を全スタッフと共有する「社長メモ」「週3行」等による理念経営によって「シンケンスタイル」を確立。現在は鹿児島・福岡の拠点とその間のエリアで年間80棟前後を供給。地元はもとよりWebで同社を知った全国の住まい手、そして工務店経営者からも支持を集める